



LS研2010/0028号
2010年2月26日

FUJITSU ファミリー会 LS研究委員会 会員各位

FUJITSU ファミリー会 LS研究委員会
幹事長 足立 伸男
(第一生命情報システム株式会社 常務執行役員)



LS研 2010年度 短期分科会メンバーの募集について

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素よりFUJITSUファミリー会LS研究委員会(LS研)の活動にご支援賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、LS研では、1年間の研究分科会活動とは別に、今から取り組む必要のある実践的なテーマや先進的なテーマを取り上げて、情報交換や調査をメインに半年間の研究活動を行う『短期分科会』を開催致します。全社企画部門、ユーザー部門などの方にもご参加頂けるテーマを設けておりますので、是非ご案内頂きますようお願い申し上げます。多数のご参加をお待ちしております。

敬具

記

1. 活動期間：2010年5月キックオフミーティング と 6月～11月（6カ月6回程度）
2. 研究テーマ：4テーマで募集します。【詳細は、別紙または下記URL参照】

- ① IFRS (国際財務報告基準)の導入に伴う問題点・課題の検証
- ② 高度な信頼性を求めるシステムのための形式手法^{*1}の適用
- ③ IT活用による環境負荷軽減への貢献
- ④ プロジェクトに有効なPMO^{*2}のあり方

^{*1} 数学を基礎とした開発工程でエラーが入り込まないことを保証する手法。

^{*2} 組織におけるプロジェクトマネジメントを統括・管理することを専門として設置された部門。

3. 実施方法：
 - ・研究期間は原則6ヶ月（1ヶ月1回／全6回）、継続的に活動を行います。
 - ・成果は、各社持ち帰れる形でまとめていただきます（規定の報告書作成等は無し）。
 - ・開催場所は、ご参加者企業および富士通(株)関連施設を利用します。
 - ・富士通グループよりアドバイザーが参加し活動をサポートします。
4. 申込条件：
 - ※各テーマ参加条件を満たしている方
 - ※毎回開催する分科会に継続して出席できる方
 - ※活動に必要なインターネット環境、会場を用意できる方
5. 募集人数：1分科会定員12名（定員になり次第、締め切らせていただきます。）
6. 参加費用：無料（なお、参加に関わる交通費、宿泊費、飲食費などは各社でご負担願います。）
7. 申込方法／締め切り：
 - ・申込期限 2010年3月29日（月） 必着
 - ・申込方法 LS研ホームページ <http://jp.fujitsu.com/family/lksen/> に掲載の「2010年度短期分科会参加申込書」をダウンロードしご記入の上、申込先までE-mailにてお送り下さい。
8. 備考：
 - ・1会員の1分科会への申込者数は、原則1名とさせていただきます。
 - ・応募が6名未満の分科会は不成立とし4月中旬までに申込責任者の方にご連絡申し上げます。
9. 添付資料：LS研 2010年度 短期分科会メンバー募集のご案内

10. 申し込み先／問合せ先 LS研事務局 担当：土井、橘
 〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター
 富士通株式会社 マーケティング本部カスタマーリレーション部内
 TEL：03-6252-2581、 E-mail：contact-lsken@cs.jp.fujitsu.com

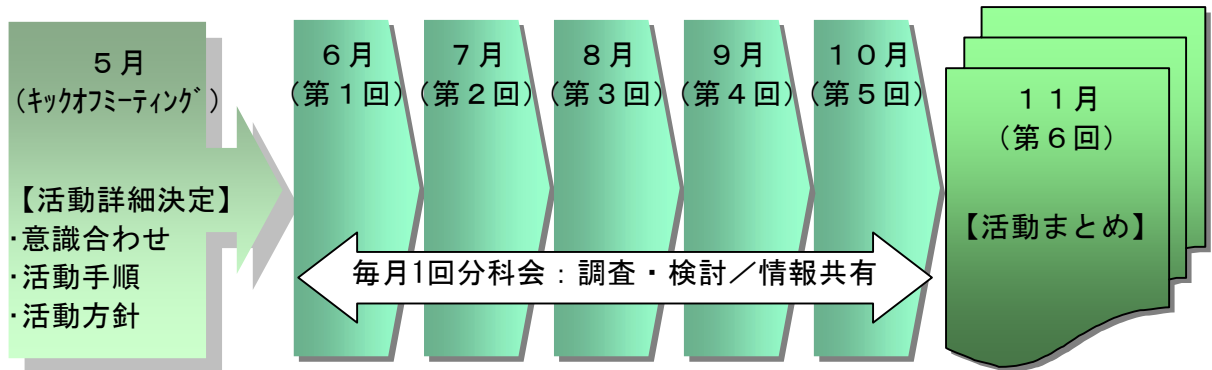
以上

LS研 2010年度 短期分科会 メンバー募集のご案内

1. 活動の目的

ITにかかわる「タイムリー」で「実践的」なテーマに対して、実際に業務を担当している方が集い、情報共有や意見交換に重点を置いた調査・検討活動を半年間程度行い、自社での課題解決や情報共有を図ることを目指します。

2. 活動要領



(1) 開催形式/活動方法

- 各月1回、全日、原則合計7回の会合を行います。
- 参加企業の事務所を持ち回りで開催させていただきます。
- 1テーマ6～12人、富士通のアドバイザー1名、事務局で活動いたします。
- キックオフミーティングにて参加者皆様の合意で、「活動手順」や「まとめの内容」、第1回以降の「活動日」について決定します。
- 活動のまとめは、規定の形式は無く成果を各参加企業に持ち帰れる形で報告レポート等を作成いただきます。
まとめの方法や成果の発表（LS研総合発表会等）については分科会内で決めてまいります。
- 会合以外の活動の補完として、インターネット上のLS研ProjectWEB(To Do List、ライブラリ、フォーラム)を活用します。
- LS研の精神の『Give & Take の精神』と『積極的な自主運営』により、各参加者の取り組み内容や課題などの情報交換や、持ち回り開催をお願いいたします。

(2) 対象者

- 参加条件を満たしている方
- テーマに関して実際に推進者として取り組まれている（担当予定）の方
- 毎回開催する分科会に継続して出席できる方
- 活動に必要なインターネット環境等の情報機器／ソフト、会場を用意できる方

3. キックオフミーティングについて ※成立後、別途ご案内を差し上げます。

本会合で、参加者の意識合せと検討手順および報告書の形式を決定しますので、必ずご出席下さいませようお願いいたします。

- ・日時：2010年5月25日（火） 9：30～17：30
- ・会場：富士通(株) 東京・汐留

以上

LS研 2010年度短期分科会 研究テーマ概要

◆各研究テーマの研究内容・参加者の参加条件などご確認の上、お申込みください。

No. 1		I F R S (国際財務報告基準)の導入に伴う問題点・課題の検証
研究内容・研究方針 (背景・現状の課題、 研究目標・方向性)	I F R S (国際財務報告基準)は2012年に適用方針が決定され、強制適用決定の場合、上場企業は2015年または2016年に連結財務諸表をIFRSに基づいて開示する必要がある。会計基準の変更は、経理・財務部門の影響だけではなく、収益認識方法の変更等に伴う業績評価方法や販売・物流などの業務プロセス、ならびに、それらを支える内部統制制度や情報システム等広範囲に影響を及ぼすと想定される。現状想定されている変更内容を踏まえ、I F R S適用にあたっての業務/情報システム検討の方向性を研究する。	
参加条件	対象部門 ・クラス	情報システム部門/経営企画部門/財務、経理部門/I T企画部門の課長
	前提スキル ・経験	I F R Sの適用を検討中の方

No. 2		高度な信頼性を求めるシステムのための形式手法の適用
研究内容・研究方針 (背景・現状の課題、 研究目標・方向性)	<p>ソフトウェア不具合による障害は後を絶たないが、解決の一手段として海外では、重要インフラである航空・鉄道、電力・ガス・水道等のシステム開発への形式手法の適用が進みつつある。国内でも組込み系への適用は既に実用段階にあり、企業の業務系でも形式手法の一種であるモデル検査技術のテスト工程への適用(富士通研究所)など、取り組みが広まりつつある。国内外における形式手法の適用事例、ツール、技術者向け研修等を調査・分析し、システム開発における形式手法の適用方法について研究する。</p> <p>※形式手法は、計算機科学における数学を基盤としたソフトウェアおよびハードウェアシステムの仕様記述、開発、検証の技術であり、開発工程でエラーが入り込まないことを保証する手法である。</p>	
参加条件	対象部門 ・クラス	情報システム部門の課長、リーダー
	前提スキル ・経験	ソフトウェア開発の新しい手法を学んでみたい方(数学・論理学の知識要)

LS研 2010年度短期分科会 研究テーマ概要

No. 3	I T活用による環境負荷軽減への貢献	
研究内容・研究方針 (背景・現状の課題、 研究目標・方向性)	<p>2010年4月より改正省エネ法が施行され、従来は規制対象外であった企業の多くがエネルギー使用量を把握し報告と省エネの推進が義務付けられることが予想されている。国としても温暖化ガス削減の数値目標(マイナス25%)も掲げられ、温暖化情報の開示要求、低炭素社会への移行など、企業の経営環境は目まぐるしく変化していく中、情報システム部門としてI Tの活用によって実現出来る環境負荷低減の方法とその効果や課題について、例えばペーパーレス、人、モノの移動の削減、使用電力の見える化などの観点で、I T技術や事例調査などを基に検討する。</p>	
参加条件	対象部門 ・クラス	経営企画部門／総務部門／I T企画部門／情報システム部門のリーダー、担当
	前提スキル ・経験	環境負荷軽減のためのI T活用に取り組む予定の方、関心ある方

No. 4	プロジェクトに有効なPMOのあり方	
研究内容・研究方針 (背景・現状の課題、 研究目標・方向性)	<p>PMOは定着化の傾向が見える一方で、企業によって取り組みや機能はまちまちで有り、役割や登場シーン、期待も拡がっている。有効なPMOの機能や評価方法、またプロジェクトマネジメントを組織的な観点で向上させるための取り組みなどについて、様々な企業の事例研究を基に意見交換を行い、今後求められるPMOの有り方について検討する。</p> <p>※PMO(プロジェクト・マネジメント・オフィス)は、組織におけるプロジェクトマネジメントを統括・管理することを専門として設置された部門のことであり、組織全体のプロジェクトマネジメントを総合的に管理することによって組織全体のプロジェクトマネジメントの品質や能率の向上、複数のプロジェクトの連携や調整も図ることができる。</p>	
参加条件	対象部門 ・クラス	情報システム部門の部長、課長、リーダー
	前提スキル ・経験	PMO、およびPM育成部門の方